

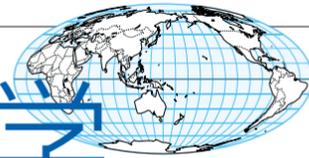
學報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.09

2010.12.15

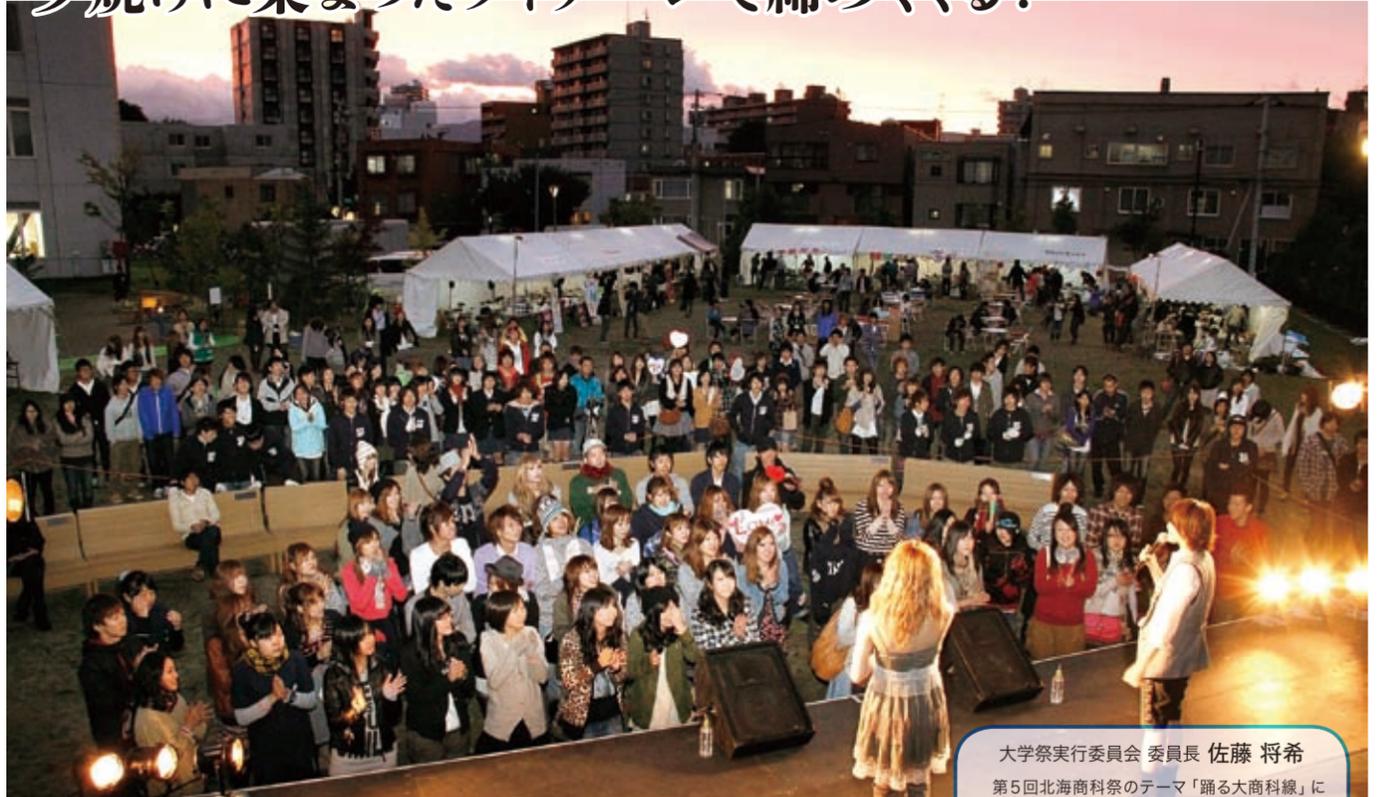
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

オープンキャンパス開催	2面
交換留学生プログラム実施	2面
北海商科祭報告記	2面
就職支援について	2面
韓国全南大学校国語教育科授業	3面
外国語スピーチコンテスト	3面
APQ関連資格概要、教職課程概要	4面
学生交換派遣事業夏期研修報告	4面・5面
ゼミ訪問、研究のいま	6面
アントレプレナーシップ論	7面
北海商科祭【フォトギャラリー】	7面
教養講座開催	8面
浅羽祭挙行	8面
大学認証評価	8面
市民公開講座開催、新刊紹介、行事予定	8面
医務室から【連載】	8面

第5回北海商科祭、

夕焼けに染まったフィナーレで締めくくる!



ラストステージまで多くの参加者で賑わった今年の北海商科祭（記事は2ページに掲載）

大学祭実行委員会 委員長 佐藤 将希

第5回北海商科祭のテーマ「踊る大商科線」には、地域の方々や中学生、大学生が繋がり合い、楽しさのあまり踊り出してしまうような商科祭にしたいという思いを込めました。実行委員や各出店団体、出演者の方々が丸となり取り組み、当日はご来場の方々の沢山の笑顔を見ることができ大変嬉しく思います。開催にあたり多大なるご協力をいただきました。企業・地域の方々はもとより、学校関係者の方々に心よりお礼を申し上げます。

Report 1 商学研究科の設置

東アジア地域を視野に、学部教育にとどまらない教育を目指して

「アジアの時代にアジアを学ぶ」という教育目標を掲げた北海商科大学はようやく大学としてのワンサイクル（入学から卒業の4年間）を経た。「アジアの時代にアジアを学ぶ」という教育目標は、「アジアの中の日本」を自覚しながら、アジアで共生していくための新しい構想力と実践力を培うことを意味する。語学を身につけ、異文化コミュニケーションを実践しうる人材が輩出され、商科大学の特色ある教育がしだいに社会的認知を受けるようになってきている。商科大学の目指す教育目標は学部教育にとどまらない。さらに大学院教育を充実し、高度な専門教育研究体制を整備して、個々の領域で専門的研究を深耕するとともに、学際的・実践的に統合再編成する総合的な能力を有した人材養成に邁進しなければならない。道内の大学には、東アジア地域との観光サービスや商取引を視野に据えて高度専門的な知識や能力の育成を目指す大学院研究科は存在しないので、本学の大学院研究科の存在意義は大きい。

来春4月の開設に向けて進む準備

10月29日、かねて認可申請していた北海商科大学大学院が文部科学省の認可を受けた。設置される研究科は、商学研究科ビジネス専攻修士課程（入

学定員5名）である。来年4月の開設に向けて大学をあげて準備に取り掛かっている。学生募集は2期にわたって行われ、1期の試験日は2月11日、2期は3月12日である。

東アジアとりわけ中国・韓国・台湾等を中心とする地域が製造拠点、消費拠点として成長してくるにつれて、従来型の国内ないし地域に限定された「地域振興モデル」構想は意義を喪失し、従来とは異なる新たな事態に対応

人材育成への期待が大きい。こうした人材や販路、提携相手などを広く東アジア地域に求めていく地域社会の要請をうけ、大学院教育における高度な専門教育研究体制を整備していくことが商科大学の喫緊の課題であることはいうまでもない。

海外提携大学・研究機関との協力関係を重視

本学大学院においては、社会人を含めた知的探究心のある人々に広く門戸

2011年4月、大学院の開設決まる

した地域振興の方策が必要とされている。グローバル化が進展するなかで北海道が地域振興のターゲットとするところは、日本の他の地域というよりむしろ東アジア地域である。道内の産業界、行政、教育界においても、東アジア・北東アジア地域の情報に長け、それらを的確に分析しうる能力を備えた

を開き、リカレント教育等により、時代の要請に応え、高度な専門的知識・能力を備えた職業人あるいは新たな企画力とコミュニケーション能力を磨き、時代に適応した組織を構築（再編）し、地域社会に貢献する人材を育成する。

本学研究科では、中国・韓国等の提携大学及び研究機関との協力関係において教育課程を推進するとともに、研究者等の受入れ体制や研究指導体制をさらに整備して相互交流の機会を拡大し、相互交流の所産や成果を教育研究に反映させて教育課程の充実をはかる。院生には、在学中に提携校・研究機関へ積極的に短期・長期留学を実施し、研究対象とする国の状況を自ら体験させることを重視している。

また、大学院の教育・研究と緊密に関連する「北東アジアコミュニケーション研究所（Institute for Northeast Asia, INEASIA, イニーシア）」を設置し、「北海学園北東アジア研究交流センター（ハイナス）」といった連携を図り、学生をこれら研究所の研究活動に積極的に参加させて教育課程の実践面での充実をはかる。

5つの科目群からなる、特色ある高度な専門教育課程

本研究科の教育課程は以下の5つの科目群から構成される。

- (1) 第1の科目群は「北東アジアコミュニケーション基礎科目」である。研究科が対象とする学問的領域の基礎を修得するため、語学、社会文化、経済を包括する選択科目を配置している。第2の科目群は「東アジア関連科目」である。日本及び東アジアに関する講義を配置し、近隣諸国・諸地域との経済交流や今後の方向性を見据える。
- (2) 第3の科目群に「商学関連科目」、第4の科目群に「観光産業関連科目」を配置し、商業及び観光業に関して、ビジネス、マネジメント、政策企画、コミュニケーション等の各側面から専門的・統合的かつ実践的な能力を育成する。
- (3) 第5の科目群は「課題研究演習」と「特別研究指導演習」である。この科目は、2年間を通して一貫した演習形式による授業体制を採用し、文献や現地調査を通じて専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養する。2年次には研究成果に関する修士論文を作成するための正・副指導教授による個別研究指導を行う。
- (4) 交流協定校・研究機関からの交流



協定に基づく派遣教員による特別講義や期間を限った集中講義も予定している。

商学部長
西川 博史 教授



本学7階に大学院が開設され、「北海学園北東アジア研究交流センター（ハイナス）」「北東アジアコミュニケーション研究所（イニーシア）」との連携体制をはかり、充実した研究体制が期待される。

Topics 1 オープンキャンパス開催される

今年のオープンキャンパスは、春の6月、夏の8月、秋の10月と、3回開催されました。保護者の方々のご都合を考慮した日曜日の開催は、第2回目の夏のオープンキャンパスに合わせて実施されました。

第1回目は6月26日(土)に開催されました。午前と午後2回の全体説明会では、本学の学部と学科について入試・広報センター長細野昌和准教授から、また入試の全体に関する説明は渡辺聡事務長から行われました。午前中の全体説明会に次いで、個別相談会と語学の体験講義、学内見学が行われました。

第2回目は、8月6日(金)と7日(土)、さらに8日(日)の3日間にわたり規模を拡大して開催しました。第1回目の内容に加え、中鉢令兒教授による「国を



第3回オープンキャンパス全体説明会

救ったキャラクター～ミッキーマウスからマーライオンまで一企業や国を支えるキャラクターたちの誕生を学んでみよう～」と題する模擬講義が行われました。身近なキャラクターの持つ意味を専門的視点から解説され、非常に興味深い内容だったと参加者から好評でした。

第3回目は10月2日(土)に開催され、阿部秀明教授による「日本の未来、地域の未来はどうなるの?～公共経済学の視点から～」と題する模擬講義が行われました。私たちが暮らす地域や国の未来について、経済学的に展望するという重要な課題を分かりやすく解説され、参加者は認識を新たにしています。

新型インフルエンザの流行により、昨年は後半のオープンキャンパス参加者が例年に比べて減少しましたが、今年は1日の参加が最も多かったのは、秋の第3回という結果になりました。参加してくださった皆さんが本学の特徴を理解し、入学を志願してくれるものと期待します。(細野)

Report 2 交換留学生プログラム実施

●山東大学威海分校から短期留学生を受入れ

中国山東大学威海分校から本年度も夏季派遣学生13名と引率教員1名を受け入れました。

7月4日に来日し、17日まで北見キャンパスで語学研修の傍ら、北見市内の高校などを訪問しました。7月18日からは札幌で日本学の講義を受け、特に7月24日には在札交換留学生と地域総合交流協定のある栗山町でフィールドワークを行ない、栗山町でソーシャルビジネスを起業した後藤英樹社長のお話を高齢者介護付賃貸住宅「廣樹庵」で伺いました。また、廃校になった小学校を環境教育の場にする取り組みなどを見学し、説明をうけま

した。この夏は雨が多く花火大会なども雨の降る中での見学となりましたが、札幌での生活も楽しみ7月30日に帰国しました。

帰国後は、協力学生として、本学派遣学生に到着時の出迎え、携帯電話購入や学内外への案内などの支援をしてくださっています。(加藤)



●2010年度海外派遣学生が出発

本学の特長である語学学習と海外への派遣は、5年目を迎え、本年度は計50名の学生が参加し、現在55名が海外で学んでいます。3年次以降の学生が協定校への長期留学(約1年間)のために、中国に2校各3名、また韓国

にも3名が前期セメスターを前に出発しました。本年度の1年次後期から協定校への海外語学留学プログラムには、中国(山東大学威海分校・煙台大学)31名が8月31日に、韓国(大田大学)9名が9月3日に札幌を出発しました。併せて、中国の国費留学生に推薦された4名も2年間の留学に相次いで出発しています。

また、北海学園大学と合同で行なう「レスブリッジ大学学生交換事業夏期派遣事業」に2年生3名、1年生1名が参加し、8月10日から9月3日までカナダに滞在して交流を深めました。

昨年度は新型インフルエンザ問題の中での出発でしたが、台風襲来の心配はあったものの、全員無事に現地へ到着しました。滞在中に尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件が起きていますが、それをめぐってのトラブルなどは報告されておられません。よりよい留学生活の支援のため、今後とも各地の国際交流センターなどを通して、情報収集を図っていく予定です。(加藤)



Topics 2 第5回北海商科祭報告記

9月25日、2年つづきの秋晴れに恵まれて、第5回北海商科祭が開催された。過去三年間は本学の教育理念である「アジアの時代にアジアを学ぶ」をテーマとした多彩な企画を展開してきたが、今回のテーマは「踊る大商科線」。前年の「商科大作戦～First Impact～」を引き継ぎつつ、多くの学生、中高生、近隣住民が直接参加できる大学祭をめざしたテーマである。

テントがグラウンドの周囲いっぱい並べられ、中国料理、韓国料理、焼き鳥、スイートポテト、フランクフルトなどの模擬店が、元気なかけ声で販売を競った。教職員も多数参加し、学生と一緒に模擬店の賑わいを楽しんだ。

メインイベントステージでは、まずストリートダンス。北海商科、藤女子大、北海道医療大、札幌教育大が参加して、エネルギッシュなダンスを披露した。次に、「女装男装コンテスト」が行われた。男子学生が女装し、女子

学生が男装するというものであったが、女装はいささか気味が悪い感じは否めず、男装は美形がそろっていたせいかわたいへん好評であった。さらに、北海商科祭恒例となった「YOSAKOIソーラン」の演舞が行われ、近隣の市民と子どもたちからなる「舞とよひら」と学園大&ほくせんカード「粋」が切れの良い、見事なパフォーマンスを見せた。

夕暮れ時になって、アーティストLIVEとして、EXILE系ボーカルユニット「LOVE」が登場すると、会場内は興奮の坩堝と化した。MISAKIとSTEPHANIE(ハーフかもしれない)が、ハスキーな声で、切ないBALLADを歌い始めると、中高生はもちろん、大学生達もグロウスティックライト掲げ、あるいはそれを腕に巻きながら、彼女らのメロディラインをなぞるように踊りだした(もともとバラードとは踊りながら歌うことらし



「女装男装コンテスト」で勝ち抜きのジャッジを行なう村越教授(左から3人目)

い)。彼女らはまだティーンエイジャーということだが、会場に見事な一体感をつくり上げた。

エンディングでは、抽選会が行われ、当選者(一等、液晶テレビ)が発表された。最後に実行委員長の佐藤将希君が閉会の挨拶をし、2ヶ月間、1年、2年、3年生が協力して準備したという点では長い、あつという間に終わったという点では短い大学祭の幕が下ろされた。(村越)

●就活体制OK! 活用は君だ!

本学では、学生の就職支援のために北海学園大と共同で通称「ミナトコム」という学園オリジナルの就職支援ポータルサイトを始動し、本学への多数の求人情報や先輩の体験談などを常時閲覧できるようにしています。求人企業の応募内容をはじめ職種別や勤務地別などを瞬時に検索できるようになっていますので、登録学生は、積極的に活用して下さい。ご家庭のPCからもアクセスできます。就活に対して



8月5日に行なわれた北海学園大学との合同就職説明会

は、「就職ガイダンス」として全体的に指導するほか、随時、個別相談できるように担当教員も配置しています。

3年生に対しては、4月以降、就職活動の心構えや準備をはじめ、職業適性検査、SPI模擬試験、企業・業界の

研究方法、インターンシップ制度、履歴書・エントリーシートの書き方、面接の心構えと対応など就職に直結するテーマについて毎月ガイダンスを実施しています。積極的に参加して下さい。4年生には個別連絡により新規求人案内をするなど就活支援をしています。

このほか教科履修単位の中に就職支援科目として情報管理論、旅行業務論、

社会行政論、税務会計論、通商実務論、PAL(中国語、韓国語、TOEIC英語)、職業指導などが配置されており、多くの先輩が科目に直結する資格を取得して就職活動に役立てています。大切なのはあなたの活用です。

Report 3 就職支援について

●インターンシップを継続実施

本学では、昨年に引き続き本年度もインターンシップを実施しました。

参加企業数18社に対して、参加学生は27名でした。学生からはとてもいい経験になったとか、企業からも皆さんはまじめで熱心であり優秀な学生でしたとの意見がありました。

インターンシップ制度は、アルバイトと異なり、学生時代において「職業体験」を通じて会社の仕組みや仕事の意味を理解することです。したがって会社の先輩による指導の下に会社の全

体的な内容を理解し、先輩指導のもとで実務的な仕事を体験するものです。

北海道におけるインターンシップ制度は、北海道経済産業局のモデル事業として北海道地域インターンシップ推進協議会のもとに、参加企業(民間・公務等)、参加大学の参加学生との割当調整などを図り実施されています。

なお、現在のインターンシップは実施日数が数日あるいは1週間程度と短期なので単位認定は行っていませんが、将来は夏期休業中における中長期間のインターンシップの場合には、単位の認定も進めていきたいと考えています。(中島)



2009年のインターンシップ成果報告会

Topics 3 韓国全南大学校国語教育科授業

去る6月28日から7月2日まで、韓国・光州広域市に所在する全南大学校国語教育学科の任七星教授と同大の大学院生が本学を訪問・滞在しました。大学院生は国語教育学科修士課程の姜ハナさん、さん、蘇リナさんの3人（いずれも女性）です。滞在中、韓国語I、留学韓国語、韓国語会話作文Iの授業に参加し、生の韓国語を1、2年生に教える機会を持ちました。日本語を一切使わず（使わず）交わす韓国語の授業に、受講生は真剣な面持ちで臨んでいました。韓国語会話作文Iの授業では韓国の伝統的なゲームである「ユンノリ」で遊ぶ時間があり、自然に韓国語を使いながら全員がゲームに参加しました。これも日本語は一切は使わず、韓国語だけで授業が進みました。果たして意思疎通が成立するかという一抹の不安がありました

たが、ゲームの面白さから緊張が解け、無事楽しく授業を終えることができました。韓国語Iの時間には「ホットク（ホットケーキに似た韓国のお菓子）」「トッポッキ（辛いタレで炒めた餅料理）」など韓国料理を作る時間がありました。いくつかの班に分かれて料理の腕を競い、渡辺事務長の試食により、いちばんおいしく作った班には賞が授与されるなど楽しく韓国語と料理を学ぶことができました。（水野）



外国語スピーチコンテスト、入賞スピーチ紹介

【入賞原稿日本語訳】創成川も清溪川のように 平尾 美樹

今、札幌の中心部を流れる創成川が、大きく変わろうとしています。地下に道路を通すアンダーパス事業に伴い、創成川と公園の整備事業が行われているのです。この事業の目的は交通混雑の緩和と交通事故の解消、また創成川の水と自然に市民が触れ合える場を作り出すことです。アンダーパスは2009年に無事開通し、公園も少しずつ完成に向かっていきます。将来は子供たちが水遊び出来るような空間を作り、またアート作品を展示して人々の憩いの場、交流の場にする予定だそうです。また整備事業において創成川に架かる創成橋を、1910年に造られた石造のアーチ橋へと復元する工事も行われています。その創成川よりもいち早く、大きな変化を遂げた川が韓国・ソウルにあります。皆さんどこかわかりますか？それは清溪川です。ソウルを旅行して実際にこの川を訪れたことのある方、また行ったことはなくとも観光スポットとしてガイドブックなどで目にしたことのある方も多いと思います。清溪川の歴史は古く、李氏朝鮮時代初期から周辺に住む人々の生活用水として使われていました。その後、日本の植民地化や朝鮮戦争また経済成長といった時代の流れで清溪川の水質汚染が深刻化し、その結果、川は埋め立てられ高架道路が作られました。清溪川は一度、姿を消したのです。しかし2000年代に入り、清溪川の復元を求める市民の声が高まり署名運動が展開されました。このことから、現在の大統領である李明博大統領がソウル市長時代にこれを公約として掲げ、約2年3か月という早さで清溪川を復元させたのです。現在の清溪川は清溪川広場からソウルの街の中心部までを西から東に流れる約5.8kmの人工河川です。川や広場は街ごとの雰囲気に合わせてデザインされていてそのデザインは場所によって全く違います。昔からの市場が多く集まる街なら、草花を多く残して自然や歴史を感じられるように設計され、ファッションビルや芸術的な建物が立ち並ぶ街なら広場の壁にも斬新なアートが描かれています。秋には芸術祭り、冬はイルミネーションなどの行事が行われているばかりか、最近ではなんとファッションショーの舞台としても使われ人々を楽しませています。日本ではあまり無い光景ですね。また清溪川広場には川の歴史や復元の様子を広く知ってもらうと文化館が作られ、学習の場としても利用されています。私も初めてソウルを訪れた時に韓国人の友人に清溪川へ連れていってもらいました。都会の真ん中にこんな静かな場所があるのかと思いき、その中で子供達が水遊びをしたり家族や友達同士で座って会話に花を咲かせている風景を見て日本にももっとこんな所があれば良いのにとうらやましくなったのを覚えています。友人も、「私もよくここで本を読んだり、考え事をしたりするの。ここに来るとすぐ落ち着くから。」と言っていたのが印象的でした。自然は私達と切っても切り離せないものです。自然環境の悪化を時代の流れで済ませずに今を生きる私達ももっと目を向けて次世代に伝えていくべきだと思います。韓国の若者は清溪川でデートをすることが夢だそうです。創成川も清溪川のように今以上に愛される川になったら皆さんは素敵だと思いませんか？私もまだ見ぬパートナーと手をつないで創成川や清溪川を歩くのが夢です。

Topics 4 外国語スピーチコンテスト

●世界大会、全国大会出場に研鑽の成果●

今年度中国語スピーチコンテストの成績

今年度の中国語スピーチコンテストの日程がすべて終了した。本学から出場した学生は、札幌大会、北海道大会さらに中国での世界舞台へと踊り出て輝かしい成績を取めた。

阿部萌子さん（4年生）は、5月の第9回「漢語橋」世界大学生スピーチコンテスト北海道予選大会で優勝し、日本代表として中国での世界大会へ進み、世界62ヶ国100余の大学の代表107名と予選・決勝戦を競い合い、3等賞を獲得。北海道代表として最初の世界ベスト30（日本人としてただ一人）に選ばれた。2年生の齋藤淳史君も「漢

語橋」予選大会、9月の暗唱の部で、いずれも3位、11月の全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会弁論部で優勝、最優秀賞を獲得して全国大会の出場資格を得た。この大会には、本学から8名の学生が出場し、朗読の部では1年生の川野天衣利さんが優勝、暗誦の部では2年生の杉本有翼君が準優勝、皆川隆貴君が3位を受賞した。また、卒業生浅利幸乃さんも第28回中国語暗唱朗読大会で最優秀賞に輝いた。中国語履修の学生諸君！ 努力さえすれば、未来は拓け、自分の夢もかなえられるし、素晴らしい学生生活を送ることができるようになる。大いに期待している。（蘇）



写真左上が齋藤淳史君、右上が川野天衣利さん、左下が杉本有翼君、右下が皆川隆貴君。



第28回中国語暗唱朗読大会

【入賞原稿日本語訳】中国語との出会い 齋藤 淳史

私と中国語との出会いは大学1年生の時から始まり、もうすぐ2年になります。私も初めて中国語を学ぶ人たちと同じように、もちろん勉強し始めたころは発音が悪くありませんでした。ですが、勉強の内容が深くなるにつれて自分でも発音が次第に良くなっていくと感ぜられるようになり、中国人の友達との簡単な対話もいくつか聞き取れるようになりました。そして次第にやる気も湧いてくるようになったのです。

中国語を勉強している中で、中国人留学生との交流も増えていき、中国人の考え方や中国のことを理解するようになり、関心を持つようにもなりました。そして昨年の8月、留学試験に合格し、山東大学威海分校に留学しました。

日本で学んだ中国語の知識を留学中も色々な場面で使うことが出来ると思っていました。しかし、私は中国に着いて自分のレベルの低さに気付く事になります。現地の人との話は私が勉強してきたものと違っても会話スピードが速く、一言も聞きとることが出来なかったのです。私は何も話さなくなっている自分がかかりました。しかし毎日の留学生活を楽しく過ごすためには、まず言葉の壁を乗り越えないといけない事に気付き、そしてすぐその問題に取り組み始め、1・2か月の間努力を惜しまずに勉強しました。その結果、中国語は徐々に上達していき、ついに簡単な中国語を使ってみんなと対話し、交流できるようになりました。その時は心から喜びが湧きあがってきました。この事は留学期間を通しての私にとって最も喜びを感じた事であり、今でも中国人と中国語で話したあの日は忘れることはできないものとなっています。

中国語との出会いは私の中国に対する印象をも変えました。いつも日本のテレビで見るニュースの影響から、中国語を勉強し始める以前は中国の生活環境はあまり良くなく、中国人はマナーを守らないという印象を持っていました。しかし周りの中国人は親切で、いつも私を気にかけてくれたので、中国留学のわずか半年間で私の中国への見方は完全に変わりました。また中国の大学生は毎日朝早くから夜遅くまで勉強しており、その彼らを見た私は自らを見直し、私も彼らたちのように懸命に骨身を惜しまず勉強しなければならないと感じました。これが中国語と出会い、そして中国留学の中で得た最大の収穫です。

今年の夏休み、私は運よく「漢語橋」サマーキャンプ見学団に参加することができ、そこで中国語を勉強するたくさんの外国人と友達になりました。そのみんなと緑豊かな水が清らかな張家界を遊覧したり、毛沢東が生前住んでいた家を参観したり、「漢語橋」の決勝戦を見学したりと様々な貴重な体験をすることができました。あの忘れられない日々の中で異なる国、異なる地区から来た人々と「中国語」という同じ言語を使い交流を深められるとは、思いもよらない事でした。そして中国語が私と異国の友人をつなぎ合わせる絆になったことに、私はとても感動しました。

現在、日本と中国の間にはわずかな摩擦やずれがあります。私はこれが日中友好交流の障害物とはならず、未来の日々の中で日中両国がより一層相互に理解しあい、協力し、利益を得ることができると信じています。今後は大学生としてさらに勉学に励み、日中両国の友好交流と将来の発展のために自らの力を尽くしていきたいと思っています。

世界大会に参加して 熱い長沙での日々

阿部 萌子 観光産業学科 4年



今回参加した世界大会は、今後の私の将来に大きく影響を与えるだろうと感じた3週間でした。この大会は世界中の中国語の猛者が一堂に会し、連日30度を超える真夏の長沙で約一カ月に渡って熱い競演を繰り広げました。

この大会に参加したことで様々なものを観察、経験することができました。それは、一つの番組を作り上げるのに非常に多くの時間と人の助けがいるということです。テレビ局側も100人余りの選手を動かすのはとても苦労があったと思います。食事やホテルでの生活全般の世話や大会本番で選手一人一人のスピーチ等の指導を受け、湖南大学の先生や大学生ボランティアスタッフには、とてもお世話になりました。また、ホームステイ先の家族は本当に親切に接してくれて、お別れの時は涙が止まりませんでした。

なによりいちばん大きな収穫は、この世界大会を通して各国の友人と出会えたことです。大会本番では、プレッシャーや緊張感が私達選手の神経を集中させ、全員でベストな演技をしようという一体感が自然と生まれていました。生放送で中国全土に放映されるので始めに選手が画面に映った時は私達が一躍有名になったような気分でした。毎日撮影やリハーサル、練習等で自由な時間が少なく不平をこ

ぼす時もありましたが、いざ同じ時間を共にしてきた仲間が一人一人帰国していく時は寂しきで、あっという間に過ぎてしまった時間をとても名残惜しく感じました。今でも漢語橋のテーマ曲を口ずさむと、その時の思い出が走馬灯のように蘇ってきます。いつか海外旅行へ行く時は、漢語橋で出会った各国の仲間を一人ずつ訪ねてみたいです。

この漢語橋を通して得た、普段知り得ない知識や貴重な経験、そして異国の友人との出会い、その全てに感謝します。謝謝!!

韓国語スピーチコンテストの結果

去る10月9日、北海道近代美術館で第12回北海道韓国語弁論大会（主催・札幌韓国教育院、北海道韓国学園）が開催されました。この日は韓国で「ハングルの日」というハングル創製の記念日にあたり、弁論大会はこの日に合わせて開催されました。大会には北海道内の社会人・大学生・高校生など15人が参加し、日頃鍛えた韓国語の実力を競い合い、例年ないレベルの高さが印象的でした。弁論の内容も単純な旅行体験記や異文化体験を

語るものよりも、より深い韓国の文化の理解に基づくものとなっていたのが感じられました。本学からは4人が出場し、このうち韓国での軍隊生活について発表した岡田夢加さん（3年生）が銅賞を、韓国人とワールドカップの応援をした体験を語った市野猛君（2年生）と将来の日韓の関係についての展望を留学生活の体験に基づいて発表した鈴木あずささん（2年生）が銀賞を獲得しました。そして、金賞は創成川のアンダーパス工事でソウルの清溪川の復元工事を比較して発表した平尾美樹さん（3年生）の上に輝きました。

借しくも大賞は逃しましたが、4人の受賞者は12月に東京で開催される全国学生韓国語スピーチコンテストに向けて研鑽に励んでいます。（水野）



写真左上が平尾美樹さん、右上が鈴木あずささん、左下が市野猛君、右下が岡田夢加さん。

Report 4 APQ関連資格の概要 [旅行業務取扱管理者資格編]

前回の学報Vol.08 (Report報告)では、専門職資格の取得を目指す専門キャリアアップ科目 (APQ: Advanced Professional Qualification) 関連の検定資格の合格者数を紹介しました。本号では、国家資格である旅行業務取扱管理者試験を取り上げ、その資格の概要と本学のAPQ科目である旅行業務に係るカリキュラムの概要について紹介します。

旅行業務取扱管理者とは、国土交通大臣が認定する旅行業界唯一の国家資格で、旅行者は各営業所に旅行業務取扱管理者を1名以上配置することが義務づけられています。その旅行業務取扱管理者には、総合旅行業務取扱管理者と国内旅行業務取扱管理者の2種類があります。旅行という商品を手にとって確認できないため、政府が安全に旅行サービスを提供するために義務づけた資格です。

法令で定められている旅行業務取扱管理者の実務内容は幅広く、非常に重要な資格です。旅行業界に進みたい人にとっては、大変有利な資格ですし、資格取得自体も難しいため非常に高く評価されています。これまでの旅行業務取扱管理者試験の合格率は、国内旅行業務取扱管理者が平均30%、総合旅行業務取扱管理者が15~20%と、難易度は非常に高くなっています。旅行業務取扱管理者の合格ラインは60%以上となっており、挑戦しがいのある資格と言えます。

本学では、こうした国家資格を取得するために、次のようなAPQ科目を配置し資格取得をサポートしています。まず、旅行業務論Ⅰでは、国内旅行業務取扱管理者試験の主な出題科目である「国内運賃・料金」と「国内観光資

源 (地理)」の2科目について国家試験の出題傾向に沿って重点科目を中心に学習します。旅行業務Ⅱでは、国内旅行業務取扱管理者試験の範囲である「旅行業法」と「各種約款」の2科目について学習します。さらに、旅行業務論Ⅲでは、国内のみならず海外の旅行業務を取扱う「総合旅行業務取扱管理者試験」に対応し学習します。日本の旅行業界では、日本人の旅行動向だけではなく、広く海外に目を向け、とりわけアジア圏の旅行動向の理解が必須となります。したがって当該科目は特に海外旅行関係を中心に国内旅行では取り上げられない業務を含めて学習します。



●旅行業務に関連するテキスト、書籍類

以上のように、旅行業務取扱管理者試験に向けた学習は、本学のカリキュラムからも窺えるように合格までの道程は決して楽ではありません。旅行業務取扱管理者になるには、やはり集中的な勉強が必要ですし、旅行業務取扱管理者を本気で目指すには当該科目を徹底的に学ぶ必要があります。何より、旅行業務取扱管理者になるにはそれ相応の覚悟が必要かも知れません。

なお、本学における昨年度の旅行業務取扱管理者試験は、国内6名、総合1名が合格するなど、高い実績を誇っています。(阿部)

Report 5 教職課程の概要

本学の教職課程では、高等学校教諭Ⅰ種免許状 (商業科・公民科) の2種類を取得することが出来ます。

今年度の4年生では、公民で現役合格者が誕生しました。公民の採用試験の合格者は、全道で2名でしたので、そのうちの一人が本校の学生でした。すばらしい快挙です。昨年度の卒業生では、教職を最後まで希望した2名 (商業1名、公民1名) が道立高校で期限付き教諭として教壇に立っています。本学の商業科教員については、前進の北海学園北見大学のⅠ期生が昭和56年に採用されて以来、86名の卒業生がおり、期限付き教員などを含めると100名程度の卒業生が、全道各地の高等学校教員として活躍しています。

この数字は、道内の高等学校商業科教員の5~6人に1人が本学の卒業生

であることを意味しています。

本学では、普通科高校を卒業した学生のニーズに応じて、公民科の免許状を取得することが出来るようになり、公民を希望する学生の数が増えています。公民科免許状を取得しておくことで、後に、科目履修等の機会を得て地歴科免許状や中学校社会教員への道を開くことも可能となります。同様に、商業科免許状をベースとして、情報の道が開かれています。

今年度、ここ数年で、一番多い17名の1年生が教職を希望し、現在、教職論を受講しています。本学の教育課程では、2年生から教職を希望することも可能であり、さらに増えそうな勢いです。教職課程を希望する学生の動機は様々ですが、やはり、一番多いのは、影響を受けた教師の存在です。教員採用が狭き門となっている現状を考えると教員になれる人は限られますが、ぜひ、大学時代にしか成すことのできない教職課程を履修し、広い視野に立って、人間的な成長を図ってもらいたいと願っています。

(大友)



教職課程教師論の授業風景

学生交換派遣事業夏期海外研修

レスブリッジ大学夏期研修プログラム

本学では、国際社会で活躍できる人材の養成という教育方針に沿い、レスブリッジ大学 (カナダ)、大田 (テジョン) 大学 (韓国)、煙台大学 (中国)、山東大学威海分校 (中国) とそれぞれ交流協定を結んでいます。今年実施されたレスブリッジ大学夏期海外研修の概要とその成果を紹介します。



カナダ レスブリッジ

レスブリッジ市はアルバータ州第3の都市で、人口は約8万5千人。州南のアメリカ国境に近い位置にあります。世界から多数の民族が集まったユニークな都市ですが、日系人が多い町としても知られ、市内には日加親善のための日本庭園があります。カナダ西部の交通の要衝でもあり、最高品質の小麦を生産する穀倉地帯として知られるのどかで緑豊かな小都市です。

商学部学生 (北海学園大学との共同募集) が隔年8月上旬から8月下旬までの約4週間、レスブリッジ大学の特別英語学習 (ESL) プログラムを受講しながら、交流イベントなどを通して実地で英語研修と文化や生活の理解力を養います。滞在中の宿舎はレスブリッジ市内ではホームステイとなり、平日はホストファミリー宅から通学し、週末はホストファミリーと過ごします。

派遣学生はTOEICの点数などを参考に書類審査と面接を行って決定され、これまでに本学学生が11名参加しています。参加学生は、航空運賃や保険などの渡航費用と現地での食費など諸経費を負担し、数回の事前研修に参加して、カナダへの理解を深めます。

現地では、ESLについての説明とクラス分けのためのテストがまず行われ、ELSの授業は、リーディングやヒアリング、文法や会話などが集中的に盛り込まれます。

●レスブリッジ大学の概要●

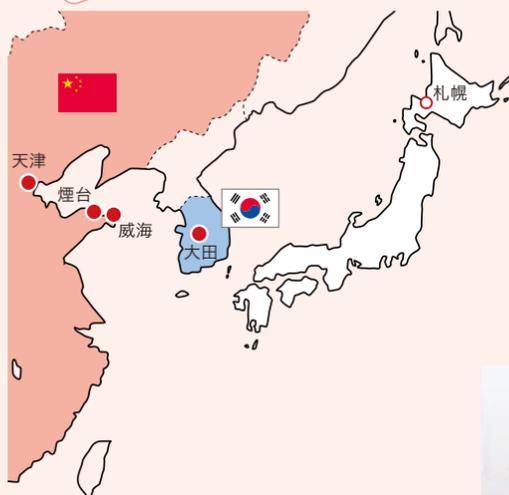
1967年に創立された州立総合大学で、文理学部、芸術学部、教育学部、経営学部、看護学部があり、約5,000人が在学しています。



レスブリッジ大学キャンパス



留学だより 現在、長期留学中の学生から便りが届きました。



現在、長期留学中の本学学生は、中国の提携校である山東大学威海分校に3名、煙台大学に3名、国費留学生として海南大学、黒龍江大学、山東大学に4名が、韓国には提携校の大田大学に3名と、それぞれ1~2年をかけて留学中です。各地からの学生のたよりをお伝えします。



●長谷川 理絵 (観光産業学科4年)

私は天津に2010年9月に来ました。天津へ来て早2ヶ月、留学生だけでなく地元の社会人や学生など沢山の友人に囲まれ、有意義な生活を送っています。彼らの価値観や習慣、独自の文化に触れることで自分の視野が少しずつ広がっていくのを日々実感しています。

私の通う南開大学は天津市の中心部にあり、元国務院総理 (首相) 周恩来さんの母校としても有名な歴史のある大学です。特に留学生の教育には熱心で勉強だけでなく生活上の相談を受けたり、中国語コンテスト、観光旅行など中国語を学ぶための環境が整えられています。先日、私のクラスも一泊二日の観光旅行で山東省にある泰山へ行き山登りをしました。クラスメイト同士の仲も深まり、ディスカッションの授業では活気のある意見がどんどん飛び交います。私は授業や日頃の生活の中で自分の意見を中国語で分かり易く述べるよう意識しています。ただ思ったことを話すぐらいなら難しいことではないのですが、順序立てて意見を述べるというのはなかなか大変です。流暢な会話を実現させるにはやはり日頃の使い慣れが一番だと思うので「多聴多聞 (多く聞き多く話す)」は中国生活で欠かせないことの一つだと思っています。今後は知識の幅を広げ、中国語で一歩進んだ会話をし、今以上に充実した留学生活を実現させるつもりです。

INTERVIEW

「世界は広がる。
もっと近くなる。」

およそ1カ月の留学。レスブリッジでは、どんな体験が待っていたのでしょうか。学び、交流、生活——。プログラムに参加した4名の学生に語ってもらいました。



ウォータートンへ小旅行



国際交流センター長
加藤 由紀子



国際交流副センター長
G.W.ハード



観光産業学科2年
有田 佑亮



観光産業学科2年
生江 勇太郎



商学科2年
今野 加奈子



観光産業学科1年
永谷 妃紗美

●加藤：みなさんは、なぜプログラムに参加しようと思ったんですか？

■今野：本学はアジアの語学教育に、とりわけ力を入れてますよね。そんななかで私は英語を履修しました。途中で「中国語のほうがよかったかな」とも思ったんですが（笑）、せっかくだから英語をもっと勉強して、ネイティブの人と交流したいと思ったからです。

■生江：僕は中学生のときに聴いた洋楽がきっかけです、きっと。英語の歌詞と意識を見くらべるのが楽しかったですね。それが高じて英語の勉強と留学に興味をもちました。

■有田：プログラムを知ったときから、ずっと参加したいと考えていました。高校時代にはアメリカに短期留学した経験もあったので、「今度はカナダだ！」って。

■永谷：私は幼稚園のころから英語を習っていました。高校のときにレスブリッジのまちに行ったこともあって、今度は留学生として行ってみたいと思ったんです。

●ハード：では、ELSではどういうことを学びましたか。講義で印象に残っていることは？

■生江：いろいろな言い回しがあって勉強になりました。

■有田：講義中のコミュニケーションも日本と違って、最初はとまどいました。例えば誰かが発表しているときでも、どんどんつつこんでくるし。

■今野：コミュニケーション方法の違いだね。日本だと、人の発言をさえぎるのは良くないことだね。

■生江：最初はみんな黙りがちだった。だれかが言うだろう、とか。積極的に発言にしたときは先生がほめてくれたのを覚えています。

■有田：振り返ってみると、“講義中に日本語を話したら罰金”なんていうルールをつくっておけばよかった（笑）。日本人同士で席が固まると、どうしても日本語で話しちゃうんですよ。

■永谷：最初と最後に受けたテストでは、やはり手応えが違いました。

●ハード：現地でのコミュニケーションは問題なくできましたか？ ピアパートナー（協力学生）とはどんな話をしたの？

■生江：日本人同士だと、目が合っただけで「話を聞いてくれているな」ってなるんですけど、向こうでは相づちを打ったりしないと聞いてないように思われてしまいます。ホストマザーと話すときは、練習だと思って、いつも「yeah, yeah!」って言いながらうなずいていました。

■有田：ピアパートナーと将来の話をしたときに「とりあえず、自分のやりたいことができる人になれ！」って言われた。良いこと言うなあって、印象に残っています。

■永谷：私の場合は、政治・経済の話は出なくて、恋の話、ファッションや音楽の話。日本もカナダも恋愛観は一緒でしたよ。ピアパートナーの家に、食事に招いてもらったのが良い思い出です。

■今野：私のピアパートナーは、森林や公園を保護するパークレンジャーのような活動をしている人だったので、環境についての話をたくさん教えてもらって勉強になりました。

●加藤：最後に、今後のプログラムへの参加を考えている後輩に向けて、メッセージをお願いします。

■有田：日本に帰ってきたいま、カナダまで距離はあるけれど、あの風景はすぐそこにあるように感じます。行けるものなら、僕がもう1回行きたいくらい。

■今野：気持ちとしては近くなったよね。

■生江：建物のつくり、まちの景観、そのほか小さなことにも僕は感動しました。自分の世界と興味が広がると思いますよ。



写真上・特別講義
写真下・修了式



●大串 多恵子（観光産業学科3年）

第2セメスターで半年間山東大学威海分校へ留学し、日本へ帰国した後も威海での楽しかった日々が忘れられず、三年生でも留学することを決意しました。最初の半年間は学校全体で日本人学生は商科大学の三人のみで戸惑うこともありましたが、二度目の留学なので

環境には慣れていましたし、なによりここで日本語を話す機会は多くないので、すぐに中国語にも慣れ、六月には目標のHSK8級に合格することができました。今回は留学生のための中国語クラスと、中国人学生と一緒に受ける授業の両方を選択しています。

先生も学生もフレンドリーで毎日とても充実しています。大学の近くにある外国語学院では日本語教師も体験し、語学を学ぶだけでなく、教えることの難しさも実感しました。

私は旅行が好きなので、上海万博も行きましたし、中国国内10の世界遺産にも足を運び、中国の壮大なスケールを体感し、気分もリフレッシュすることで勉強に励むことができました。経済成長真っ最中の中国でこの活気とともに多くの知識を身につけられるよう、残りの留学生活も一日一日を大切に、目標に向かって努力し、今回の留学も大成功を収めたいと思います。

●三浦 修平（商学科3年）



私は2008年に中国山東省煙台市煙台大学で約半年留学して以来、同じ煙台大学で2度目の1年間の長期留学を経験することができました。今回、留学生生活をより有意義に過ごすため、一つ大きな目標を立てました。

その目標というのが「何事にも積極的に取り組む」ということです。ありきたりで抽象的ですが、1度目の留学では学校の中に籠りがちでその目標とは程遠い留学生活を送ってしまったため、今回の留学では「リベンジ」という気持ちも込め留学に臨みました。

私は3月から韓国の大田大学に1年間留学しています。1学期の頃と比べ、韓国人と一緒に受ける授業も日常生活にもだいぶ慣れてきました。

2学期は1学期よりも行事が多く、韓国人と触れ合える機会も多いです。留学生が自国の料理を作って韓国人に料理を食べてもらうフードフェスティバルや学校祭など、とても楽しい行事ばかりです。日語日文学科の人とはもちろん他学科、他国のひととの交流もたくさんできる良い経験となりました。行事の他にも韓国人と一緒にご飯を食べに行ったり他の国の人たちとたくさん話をしたり日本では体験できないようなことがたくさんできました。

しかし楽しいことばかりだけではなく辛いこともあります。文化の違いはもちろん意見の食い違い、性格の不一致、授業やテスト、いろんな面でストレスがたまるのも事実です。しかしその度、日本人の友達、先生や韓国人が助けてくれてとても助かりました。

留学生活もあつという間にあと2、3ヶ月しかなくなってしまいました。韓国に来る前は1年間韓国にいるなんて長いなと思っていましたがいざ来てみるととても短い時間です。残りの数ヶ月は少し無理をするつもりで思いっきり韓国留学を充実したものにしたいです。



●三瓶 里美（商学科3年）

目標を実行していく上で特に重視したことは現地の先生、友人との交流を通じて中国の文化、中国人の考え方を学ぶことです。自ら積極的に交流していくことにより友人も増え、文化や考え方も自然と理解が深まっていくのが実感できました。習慣の違いから、お互いの意見が食い違うことも多々ありましたが、それを乗り越えることにより文化や考え方の理解に繋がったのだと思います。

今回の留学では1度目の留学のときはまた違った観点から中国という国を学ぶことが出来ました。それも全ては、積極的に取り組み、文化や考え方を理解したいという気持ちがあって初めて得ることが出来たものだと思います。この経験を活かし、残りの大学生活でさらに理解を深めていきたいです。

ゼミ訪問1

柳川博 商学研究ゼミナール

柳川ゼミは、教授と学生のオープンな関係からくる自由な気風が特徴です。「日本と国際経済」について学びながら、専門分野で読み、書き、話すことのできるリテラシーを育てています。

柳川ゼミのテーマは「日本と国際経済」。新しく2年生がゼミに加わる後期ゼミスターでは、2、3年生が実践的な「道具」情報の調べ方をきたえます。年度をまたいで前期ゼミスターに入ると、3年生がレポート発表とディスカッション、4年生は卒論に取りかかります。

一貫してめざしているのは、「大学生としてふさわしい力」を身につけること。読み、書き、話すというリテラシーを、専門分野を通して「演習」しています。その基礎になるものとして「信頼のおける情報をつかまえる力」に重点を置いています。

「情報をつかまえる力。毎年テキストが変わっても、ゼミのポリシーは変わりません。社会人になれば、なおさら必要になる力ですから」と柳川先生。現在は「経済データの読み方 新版（鈴木正俊・岩波新書）」をテキストに使い、データから国際経済を分析する力をきたえています。1名が割り当てられた部分について調べたことを発表しますが、このテキストは2006年発行。現状を知るには、2010年現在までの情報を発表者が補足しなければなりません。テキストで引用されている情報の続きを探す過程で、信頼の



柳川ゼミのみなさん

books 先生のオススメ

- ・「日本国勢図会」(財) 矢野恒太記念会
- ・「世界国勢図会」(財) 矢野恒太記念会
- ・「データでみる県勢」(財) 矢野恒太記念会

おける情報のありかを知り、調べることがつきます。

雑誌の編集経験をもつ柳川先生は、レポート作成の仕方についても熱心に指導します。見出しを書き出し、見出しごとにメモをつくる。そのメモをもとに文章にしていく。その過程で解釈と再構成が行われ、自分の言葉によるレポートができあがるのだといいます。「教授の専門である北米を中心とした国際経済論に興味をもったから」教授の人柄にひかれたから。柳川ゼミの学生はさまざまな志望理由で集まっているからか、ときには自由な発言が飛び交います。

「雑談のなかに面白い意見が含まれていることもある。それが議論を深めるきっかけになったり、将来に活きるヒントになったりする。ゼミ発表や議論を通して何か一つでも得てくれれば、前進のきっかけになると思います」学生は「きっかけ」をつかまえるようとしている。だから研究室もオープン。常に柳川先生は学生の言葉に耳を傾けています。

ゼミ訪問2

松原英二 商学研究ゼミナール

松原ゼミのテーマは「資本市場の研究」。日本経済新聞をもとに、発表とディスカッションが基本スタイルです。問題意識をもつて見つける視点、物事を多面的に考える力を養っています。

現在、19名のゼミ生が所属する松原ゼミは「資本市場の研究」がテーマ。日本経済新聞の記事をもとに発表、それをもとにディスカッションを行うのが基本のスタイルです。

ゼミは2年間。2年生の後半にあたる第4ゼミスターから、4年生の前半にあたる第7ゼミスターまで4期におよびます。発表を担当する3年生が中心となって、ゼミを盛り立てています。発表者に選ばれたゼミ生は、日経新聞のなかから、興味をもった記事を取り上げます。概要、興味をもった理由、背景分析、改善策などについて説明する学生。ときおり、先生の補足を交えながら発表は進みます。ディスカッ



松原ゼミのみなさん

books 先生のオススメ

- ・「江戸の繁盛しぐさ」越川禮子(日経ビジネス文庫)
- ・「街場のメディア論」内田樹(光文社新書)

ションの参加者は、すべてのゼミ生です。

「少くく外的な意見でもいいんです。結論の出ないブレインストーミングになってもいい。恥ずかしがらずに、とにかく意見を述べることが大切だと考えています」松原先生は「ディスカッションは全員参加」と強調する一方、質疑を受け発表者にも「興味をもった記事を選んだのだから、『わからない』という答えは成立しないと思います」と、積極的に参加する姿勢を求めています。

ゼミを通して身につけて欲しいもの。それは「本当にそうだろうか?」という多面的な視点です。議論が停滞したり、一般にまかり通っている結論に落ち着きそうになると、先生が呼び水のように疑問を投げかけ、もう一度出発点に引き戻します。

マスメディアが出した判断や前提条件を取り払って考えてみる。例えば北方領土問題。ロシアは返還したがついて、日本は返還を望んでいないとしたら。ディスカッションを「ある種の遊び、知的なゲーム」と松原先生は表現します。そんなゼミの方針に対して、「考える練習になる」「いろいろな方向から考えるきっかけになる」とゼミ生は口をそろえます。

「専門分野への知識や理解を深めることは当然として、現状に対する問題意識をもつて、それらの解決を試みる向上心に富んだ人になって欲しい。企業人になっても大切なことです。もともと活発なディスカッションになればと思います」松原ゼミの活気は、日に日に増しています。

極めて性格の異なる道の駅とエコミュージアムの2つの施設を統合する統合デザインによる「多核多心構造」の中小都市の核心の再生手法を提案しようとするものである。

● 観光景観論によるニセコ尻別川観光ラフティングの盛岡北上川への適応

盛岡北上川は、余暇活動としての「ゴムボート川下り大会」が昨年で33回目を数え、「Largest Raft Race」としてギネスに認定される等、その利用が盛んになっているが、アウトドア・ビジネスとしての観光ラフティングの起業化はされていない。本研究は、観光景観論の観点から、つまり今後急増が期待される訪日外国人観光客を新たなターゲットとして捉え、わが国のアウトドア・ビジネスの先進地であり、清流と自然景観に秀でた北海道ニセコ尻別川の観光ラフティング事業を、日本を代表する眺望を有する盛岡北上川(都市河川景観)へ適応させることにより、北上川の河川景観のいっそうのブランド化を図ろうとするものである。現在は、モニターツアーによるラフティング試験運行をすませ、観光関係者、河川管理者(国交省・県・市)などを構成員とする協議会を設置して、実験成果の報告の議論をしている。今後は、比較類推法による観光ラフティング客の需要予測、周辺の観光施設を含めた「観光ラフティングコースの設定」、先進地の事業者及びモニターツアー参加者を含めたパネルディスカッションの開催を予定している。



写真提供: NAC ニセコアドベンチャーセンター

究を紹介する。

● 銀河都市論

本研究は「宇宙原理」、つまり銀河の恒星と散開星団(比較的若い恒星の集まり)に注目し、恒星の質量とわが国の都市の人口規模のそれぞれの順位・規模法則(rank-size rule)のアナロジーの検討から、21世紀の新しい都市デザインにとって必要不可欠な首都東京の人口規模と平成の大合併後(市町村合併特例法の施行:平成7年~17年)の都市人口に基づく都市の分類と都市の成長管理の方向性を検討しようとするものである。検討の結果、首都東京の人口規模は1,325万人の値を得、人口規模による都市の分類では、巨大都市150万人~1,325万人(首府都市を含む)、大都市50万人~150万人(政令指定都市を含む)、中都

都市の胎生的進化の比較研究へ、さらにはその成果に基づく都市景観デザインの体系化の研究へと興味は深まっていった。

日欧文明圏の中で都市を構造デザイン史的に把握し都市景観デザインを論じるのは従来の景観研究の手法では難しいと考えられたので、従来の景観論に人間の脳機能の概念を導入して景観論を拡張充実させ、景観論をより確かなものとしながら、日欧の記念碑的都市を例に、人間の脳と心と都市の本質の解釈につとめ、その検討を基に都市景観デザインの体系化を試みた。本研究で得られた「都市の胎生的進化モデル」や「都市景観デザインモデル」が、今日の渾沌とした成熟社会の諸現象に対応する都市景観デザインの助手になればと考えている。

2004年6月11日に、わが国初の景観に関する総合的な法律である「景観法」

Report 6 研究のいま——景観・デザイン

■ 安藤 昭 教授

市20万人~50万人(特例市及び中核都市を含む)、小都市5万人~20万人(中心市を含む)という値を得、市町村合併後の都市の分類を踏まえた新しい都市の成長管理の方向性を提案している。

● 都市の核心としての道の駅とエコミュージアムの統合デザインの提案

平成の市町村大合併によって、市町村数は2001年1月の3,447市町村から2009年10月の1,772市町村へ半減し、市の数において12.7%増加したものの、町の数において63.5%、村の数において66.3%も減少し、町村は大きく消滅した。そのため、現在は合併後の都市の再生(再構築)が緊急の課題となっている。本研究は、わが国における「エコミュージアム」の現況と地域社会の発展に関する効果の計測と「道の駅」の現況と地域振興効果の計測を踏まえ、地域振興において

が公布された。また、同年7月には「観光立国行動計画」が決定された。景観法は、基本理念において、良好な景観は観光その他の地域間の交流の促進に大きな役割を担うものであるから、地域の活性化に資するよう個性的で質の高い景観形成を図る必要があることを明確にし、住民、事業者、行政の責務についても明確化している。加えて、実効法としての景観形成のための行為規制を行う仕組みや支援の仕組みも備えている。このように、景観法の公布を契機に、景観・デザインは実現可能性の高いものになってきたことから、今後の景観研究は従来のような「景観形成(デザイン)」と「空間構成」論から、これを具体的にしていく「実現手法」の研究へとシフトしていくものと思われる。以上のような社会的背景を念頭に置きながら、現在実施中の研



私が景観・デザインの研究に興味を持つようになったのは、30才の頃に日本の近世城郭の景観の研究を始めたときからのように思われる。当時、日本の城郭研究と言えば有名な日本城郭史をはじめ歴史学、地理学および建築学の分野においては既に多くの研究成果があったが、景観・デザインは新しい研究分野であったので研究は少なかった。中でも、都市景観・デザインからの研究は少なかった。画一的デザインが極度に避けられ、非対称的構造物で、ダイナミックで変化に富み、優れて個性的で日本的な特色をもつ構造物である近世の城郭景観、特に土木的スケールをもって出現し、現代日本の都市の原核として都市に個性と奥行きを与えている平山城の城郭景観を最初の研究テーマにできたのは幸運であった。

その後、研究の興味は次第に都市全域に移って、都市全域を対象とする景観・デザイン研究こそが都市の基本的性格を決定づけるという認識のもとに、日本とヨーロッパの地方都市を代表する都市景観の比較研究を、地理的・社会的条件の類似している城下町起源の都市盛岡とドイツ中世起源の都市・ダルムシュタットを中心に試みている。この比較研究を通して、日欧の地形条件や雨量条件そして土地生産力などの自然条件の相違や歴史・文化の相違(街路名称の有り無しなど)が日欧文化の都市景観の評価にどのように反映しているのかを大略理解できたことは有益であった。この研究を契機に、日欧文明圏の2千年~3千年に及ぶ

Topics 5 アントレプレナーシップ論



写真左から前川二郎氏、伊藤博之氏、加森公人氏、小砂憲一氏

話題のiPadや私達が意識せずに使っているマイクロソフトワードは、大学生だったスティーブジョブスやビルゲイツによるものである。大学発ベンチャーを活性化することは、日本の強みにつながるということから、文部科学省と経済産業省が共同して、在学中の学生に対する教育に力を入れている。その一環として創設された、経済

産業省産業技術人材育成支援事業のモデル講座に、このたび北海商科大学のアントレプレナーシップ論が選ばれた。講義では、実業界で活躍中の創業者的経営者を招聘して、講演してもらっている。すでに朝里クラッセホテル・スキー場をはじめ多角経営者であるアンビックス社の前川二郎社長、初音ミクで有名な「音」を扱うIT企業クリブ

トンフューチャーメディアの伊藤博之社長、ルスツリゾートや手稲スキー場など北海道の大企業、加森観光の加森公人社長から貴重な起業経験を拝聴した。12月には、北海道のバイオ産業のトップであるアミノアップ化学の小砂憲一会長（バイオ健康食品の源となる原料を生成）の招聘を予定。さらに2月1日には、東京から藤巻幸夫氏を招聘して、学生のプレゼンテーションにコメントをいただく予定だ。藤巻氏は大学卒業後に就職した伊勢丹で頭角を現し、担当する売り場毎に高い売り上げを実現していった。その業績を買われて福助の再建を図り、流通系の企業の重役等を歴任、現在も社外重役やコンサルティング、講演活動を行って

いる。また朝日新聞beや日経の雑誌にもレギュラーを持ち、明治大学商学部の特任教授でもある。同氏から直接コメントをもらい、話を聴けることは、学生にとって貴重な体験となるだろう。（堤）



【藤巻幸夫氏特別講義】

日時：2011年2月1日(火) 10:10~12:00
会場：札幌全日空ホテル(中央区北3西1) 白樺の間
※履修者以外の聴講可（問い合わせは堤研究室まで）

Report 7 学生による地域貢献

●札幌駅前通地広場を活用した「賑わい創出手法」の検討会に参加

本学も参加している「札幌圏大学連携ネットワーク会議」で提案された、平成23年春に地下鉄の大通駅とさっぽろ駅を結ぶ札幌駅前通公共地下歩道の一部の「広場」を活用したにぎわい創出の取り組みの提案募集に、山上結花さんを代表とする本学1年生5名が応募しました。山上さんは7月15日に札幌市が開いたオリエンテーションに参加、現地を見学し、他大学の学生達と交流しながらワークショップに出席しました。そしてさまざまな角度から検討し、議論を重ねてきました。

その結果、「市民が出すアクションに、利用する人がリアクションする地下歩行空間」をキーコンセプトに、札幌市民の「見てほしい」、利用する人



の「見たい、知りたい、行きたい」を実現し、にぎわいにつながる空間の提供として、待ち合わせスポットや休憩スポットの設置、さらに壁や床を利用したアート作品に市民参加の道をひらくなどの提案をまとめました。

11月12日には中間報告会が開かれ、この利活用案を全員で発表、他大学の学生からも1年生の頑張りを称賛する声がかかれ、またゲストからの講評でも、壁紙アートなどはぜひ実現させたいという評価を頂きました。

山上さんは、さらに細部を詰めて、3月に開かれる最終報告に望みます。

●札幌市南区の八剣山周辺でボランティア活動

札幌市南区にある八剣山周辺は、1871年に開通した東本願寺道路沿い（みずまい）に開拓使が建築した簾舞通行屋など歴史のある地域で、さらに札幌農学校第四農場や御料農場が設置され、北海道農業の先進地として指導的な役割を果たしてきた地域です。現在でもリンゴやサクランボ、ブドウなどの果樹のほか、野菜が生産されています。本学では教員のグリーンツーリズム研究をきっかけに、同地域で毎年6月に行



ラブアース クリーンアップ イン北海道に参加した学生たち

なわれる環境保全のための清掃活動（ラブアースクリーンアップ イン北海道）に、交換留学生を含め毎年多くの学生がボランティアとして参加しています。

本年度は、中国・韓国からの交換留学生と日本人学生22名と教員3名が参加、地域住民と一緒に、道路沿いや橋の下などに投げ捨てられた空き缶を拾い、また豊平川沿いの雑木林の中に廃棄されていた数百本近いタイヤを処理のために運び出しました。地域住民の方々からは、感謝とともに、こういった活動を通して国際交流が身近になったという言葉をいただきました。

また、同地域では10月26日の降雪により、大きな被害を受けました。降雪被害にあわれた農家の復旧作業に、本学からも教員や留学生が参加、ブドウ棚の整地などを手伝いました。

（加藤）

2010北海商科祭

photo gallery



Info 1 北海商科大学公開講座

「移動・ビジネス空間としての東アジア」が開催される

2010年度後期公開講座は以下の要領で全6回中既に4回が開催され、多くの市民の方の参加をいただき好評を得ています。

- 日時：2010年10月23日～12月25日 10:30～12:30
- 場所：北海商科大学 8階会議場
- 参加対象：一般市民（含む学生）
- 入場無料



お問い合わせ先
 北海学園北東アジア
 研究交流センター (HINAS)
 TEL.011-841-1108 FAX.011-841-1109
 Eメール hinas@hokkai.ac.jp
 ホームページ <http://www.hokkai.ac.jp/hinas/>

- 第一回 10月23日 日
 - 「中国における日本語教育の現状」王南 (理台大学副教授/北海商科大学交換教授)
 - 「国際会計基準と中小企業の会計」中島 茂幸
- 第二回 11月6日 日
 - 「他民族国家と観光資源 -シンガポールを中心として」中鉢 令兒
 - 「中国への視線」佐々木 学 (北海道新聞報道本部編集委員)
- 第三回 11月20日 日
 - 「中国のレアアース産業」伊藤 昭男
 - 「韓国の鉄道政策」水野 俊平
- 第四回 12月4日 日
 - 「近未来の中国-人口と成長」元山 啓
 - 「東アジアのイノベーション戦略」菊地 均
- 第五回 12月18日 日
 - 「韓国経済の現状」崔 孝喆 (大田大学校教授、地域協力研究院長)
 - 「中国の学術状況と伝統的価値観」西川 博史
- 第六回 12月25日 日
 - 特別講演「中国経済の現状」樊 綱 (中国経済改革研究会国民経済研究所所長)



第2回公開講座講師・佐々木学氏

Topics 6 教養講座開催

12月3日、本学と北海学園大学共催の第41回教養講座特別講演会が「チャレンジ精神を忘れずに」と題して、ベストセラー「五体不満足」の著作で知られ、スポーツライターとしても活躍する乙武洋匡さんを講師にお招きして開催されました。ユニークな体験談にうなずく学生や、時には笑いに



包まれるなど有意義な講演会となりました。

Topics 8 姉妹都市提携調印

札幌市は本学の交流協定校がある韓国大田(テジョン)広域市と姉妹都市提携を結び、10月22日、札幌市で姉妹都市提携調印式が行なわれました。

大田大学校からの交換留学生4名が列席し(右写真)、上田札幌市長とヨム・ホンチョル大田広域市長によって、盟約書への調印が行なわれるのを見守

Topics 7 浅羽祭挙行

学校法人北海学園主催による平成22年度浅羽祭が10月21日に執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖先生の名を冠し、この1年間に逝去された北海学園教職員ならびに学業半ばにして学籍を離れた学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊しているものです。



りました。ヨム・ホンチョル市長は、大田大学校の総長も務められたこともあり、これからの本学と大田大学校との



交流に姉妹都市という新しいチャンネルが加わりました。(加藤)

Info 2 新刊紹介

『北海道の大地 四季彩』



- 学校法人北海学園北東アジア研究所 (HINAS) 発行
- 2010年10月刊 非売品

『ハーバース理論の変換 批判理論のパラダイムの基礎』



- 横田 榮一 著
- 商学部教授
- 2010年7月12日刊/梓出版社/定価5,145円/ISBN978-4-87262-228-7

Topics 9 大学認証評価

さらなる大学改革に向けて初の認証評価受審

日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審(実地調査終了)しました。

すべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める7年以内に一度、文部科学大臣が認証する認証評価機関の実施する認証評価を受けることが義務付けられています。平成18(2006)年に「アジアの時代にアジアを学ぶ」を教

育目的に掲げて新たなスタートを切った本学も国際的通用性の向上、国際競争力の強化等を目指し、さらなる大学改革への取り組み、教育研究水準の維持向上に努めるために日本高等教育評価機構による平成22年度大学機関別認証評価を受審(10月7日、8日に実地調査を終了)しました。

今後、認証評価結果がもたらされますが、本学はその評価結果を参考に、さらなる発展と社会的責務を果たしていきます。(伊藤)

Topics 10 建学の精神のレリーフが設置される

本学エントランススペース連絡通路に、建学の精神である「開拓者精神」～アジアの時代にアジアを学ぶ～を紹介するレリーフが設置されました。

素通しの大型ガラスに描かれた世界地図と、建学の精神の英文表記「Our founding principle is: "Frontier Spirit" Learn about Asia in the Era of Asia」は外の風景から浮き立つように工夫されています。120余年に及ぶ北海学園の歴史を背景にした北海商

科大学の歴史や、この建学の精神にあらためて思いを馳せる機会にしてみようでしょうか。



Report 8

東アジア観光情報学研究会

『観光情報学会』の下部研究会である「東アジア観光情報学研究会」の活動状況および活動予定をご紹介します。

【活動状況】

6月16日北海商科大学 8階北東アジア研究交流センター (HINAS) 会議室にて、研究会を開催しました。

(1) 研究紹介

- ①報告者：原田房信教授、報告テーマ：「ニセコの観光の現状について」
- ②報告者：細野昌和准教授、報告テーマ：「外国人旅行者に対するモバイル機器を利用した観光情報提供の課題」

(2) 運営会議

【活動予定】

下記要領にて「第8回観光情報学会全国大会」を開催する予定です。
 日程：2011年6月11日(土)
 会場：北海商科大学
 主催：観光情報学会、東アジア観光情報学研究会

Info 3 今後の行事予定

12/27(日)	冬季休業開始
2011年	
1/8(日)	冬季休業終了
1/11(日)	講義再開
1/15(日)・16(日)	大学入試センター試験
1/29(日)	卒業論文提出期限
1月中	就職支援各種講座
2/4(金)	振替講義日(月曜日分)
	後期講義終了
2/8(日)	後期成績開示開始
	成績・採点異議申し立て受付
2/10(日)	成績・採点異議申し立て受付終了
2/11(日)	大学院第1期入学試験
2/13(日)	一般入学試験
2/24(日)	入学試験合格発表
2月中	学内業界研究会
3/1(日)	卒業生発表
3/12(日)	大学院第2期入学試験
3/18(日)	卒業式、卒業祝賀会
3/23(日)	新4年次ガイダンス
3/24(日)	新3年次ガイダンス
3/25(日)	新2年次ガイダンス
3/28(日)・39(日)	新4年次履修登録
3/29(日)・30(日)	新3年次履修登録
3/30(日)・31(日)	新2年次履修登録

医務室から～『二十代の健康』②

医務室 二瓶 妙子

擦り傷や切り傷、ヤケドの新しい治療法「湿潤治療」

傷やヤケド(火傷・熱傷)を負ったなら、消毒をしてサビオを貼るとするのが定番でした。しかし、最近は「潤い治療」「湿潤治療」といった「新しい創傷治療」が効果を発揮しているようです。

形成外科学会にも発表されたこの治療の特徴は、「消毒とガーゼ(サビオも含む)を使わない」、「痛みがない」、「早く治る」です。

では、その方法とは。まず、①水道水でキズの汚れや血液を洗い流します。②水気をしっかり取った後、③ワセリンやラップで保護する。これだけの実にシンプルな方法です。キズに潤いを与えて(体の力で)治すというのがポイントで基本になります。

この場合のラップとは、もちろん、市販の食べ物を包むラップです。皮膚科では長いこと使われてきたODT療法と同じものです。

【参考資料】

- 業学の時間(2009年7月9日放送分)「創傷被覆材について」石岡第一病院傷の治療センター長 夏井睦 湿潤治療とは <http://www.sakae-clinic.com/wound/p01.html>
- 『さらさら消毒とガーゼ』<うるおい治療>が傷を治す 夏井睦 著

「ラップはどうも」という方には、ドラッグストアでBAND-AIDのキズパワーパッドやメディケア、あるいは、NICHIBAN

(他メーカー)のフィルム材などの「創傷治療材」が販売されています。これらは湿潤を高めてくれる優れものです。

では、「消毒とガーゼ」はなぜダメなのか。その理由は、消毒薬は、傷を治すいい細胞まで破壊し、傷を深くして治りを遅くしてしまうのです。さらに、細胞は、乾燥させると死んでしまいます。ガーゼは、傷が治るのに欠かせない血小板やコラーゲンなどの細胞成長因子をたっぷり含む組織液(湿潤のもと)を吸って、細胞を乾燥させ、ミイラ化させてしまうのです。

長いこと定番治療だった「消毒とガーゼ」、さっそく見直してみませんか?

